

ももの枝幹害虫に対する総合防除体系の実証

要約

成虫発生前に主幹部及び主枝基部にネットを巻き付けることやアクリル樹脂剤を散布することで産卵を抑制する効果が期待できる。

○ 展示のねらい

管内では、クビアカツヤカミキリによる被害が確認されているが本害虫の生態特性や防除等の知見が極めて少なく早急な防除体系の確立が求められていることから、薬剤防除と耕種防除を組み合わせた成虫産卵抑制を図ることで被害軽減の効果を確認した。

区名 (品種名)	処理内容			供試樹数 (被害樹)
	成虫羽化前		成虫羽化後 収穫後(9/22)	
	開花後(5/12)	袋掛け後(6/10)		
供試区1(黄金桃)	スプライト [®] M散布	網巻き	スプライト [®] M散布	4
供試区2(黄金桃)	スプライト [®] M散布	アクリル樹脂材散布		3
慣行区(白桃)				4

注1. スプライト[®]Mは200倍液を樹幹部にSSを用い手散布した。

注2. 網は防風ネット4mm目を使用し、主幹部及び主枝基部全体を覆うように巻き付けた。

注3. アクリル樹脂材「商品名：カガブロック」は、原液150を樹幹部にジョウロで手散布した。

○ 主な成果

成虫の発生期は6月1日～8月1日の約2ヶ月だった。

成虫発生前に主幹部にネットを巻き付けることやアクリル樹脂剤を散布することで産卵を抑制する効果があると考えられるが、コストと手間がかかり全樹への処理は困難と思われることから、重症樹の網巻きにより成虫の拡散防止を行うのが望ましい。

各樹の被害指数及び樹体内内容虫数

○ 今後の方向性

被害程度3の樹については、その後著しい衰弱や枯死が見られることから、早期に改植するよう指導する。

現実的で有効な防除手段がないことから、低コストで容易に実施できる防除方法を確立していく必要がある。

区名	調査樹 No	被害指数 ^{※1}			樹体内幼虫数 ^{※2}	
		5/22	9/13		若齢幼虫	老齢幼虫
供試区1	1	0	1			
	2	2	2			
	3	2	2			
	4	3	3		0	29
供試区2	1	1	1			
	2	3	3	衰弱	0	21
	3	3	枯死			
慣行区	1	3	3	衰弱		
	2	2	2			
	3	3	3	衰弱	3	42
	4	3	枯死			

※1 株元のフラス量：無=0, 直径5cm大=1, 15cm大=2, 30cm大=3

※2 調査日：供試区1=1月30日、供試区2・慣行区=11月22日

実施機関：安足農業振興事務所経営普及部 実施場所：佐野市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315